

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第2区分
 【発行日】平成18年6月1日(2006.6.1)

【公開番号】特開2005-126327(P2005-126327A)
 【公開日】平成17年5月19日(2005.5.19)
 【年通号数】公開・登録公報2005-019
 【出願番号】特願2003-360064(P2003-360064)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 8/00 (2006.01)
 A 6 1 Q 1/12 (2006.01)
 A 6 1 K 8/19 (2006.01)
 A 6 1 K 8/18 (2006.01)
 A 6 1 Q 1/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 7/035
 A 6 1 K 7/00 B
 A 6 1 K 7/02 P

【手続補正書】
 【提出日】平成18年4月12日(2006.4.12)

【手続補正1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項1】

1) 水を包含させた平均粒径0.0001ミクロンから0.1ミクロンの多孔性粉体と、
 2) 酸化亜鉛、塩化亜鉛、塩化マグネシウム、塩化カルシウム、塩化アルミニウム、及び金属ピラードクレーから選択される1種乃至は2種以上の必須成分とを含有することを特徴とする、化粧崩れ防止用の化粧料。

【請求項2】

前記多孔性粉体の表面が疎水化処理されたものであることを特徴とする、請求項1に記載の化粧料。

【請求項3】

前記多孔性粉体が、シリカであることを特徴とする、請求項1又は2に記載の化粧料。

【請求項4】

前記必須成分が、酸化亜鉛であることを特徴とする、請求項1に記載の化粧料。

【請求項5】

下地化粧料であることを特徴とする、請求項1～4の何れか一項に記載の化粧料。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0001
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0001】

本発明は、化粧崩れ防止用の化粧料に関し、更に詳細には、鼻梁部等の皮脂分泌量の多い部分に適用して、該皮脂分泌に起因して起こる化粧崩れを防止する下地化粧料として有用な化粧料に関する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

このような状況に鑑みて、本発明者らは、従来では対応できなかった、皮脂濡れと、皮脂流れの両方を防ぎ、化粧持ちを向上させる手段を求めて、鋭意研究努力を重ねた結果、特定の多孔性粉体と、特定の成分とを含有することを特徴とする、化粧崩れ防止用の化粧料がそのような特性を有していることを見出し発明を完成させるに至った。即ち、本発明は以下に示す技術に関するものである。

(1) 1) 水を包含させた平均粒径 0.0001 ミクロンから 0.1 ミクロンの多孔性粉体と、2) 酸化亜鉛、塩化亜鉛、塩化マグネシウム、塩化カルシウム、塩化アルミニウム、及び金属ピラードクレーから選択される 1 種乃至は 2 種以上の必須成分とを含有することを特徴とする、化粧崩れ防止用の化粧料。

(2) 前記多孔性粉体の表面が疎水化処理されたものであることを特徴とする、(1) に記載の化粧料。

(3) 前記多孔性粉体が、シリカであることを特徴とする、(1) 又は (2) に記載の化粧料。

(4) 前記必須成分が、酸化亜鉛であることを特徴とする、(1) に記載の化粧料。

(5) 下地化粧料であることを特徴とする、(1) ～ (4) の何れか一に記載の化粧料。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

< 1 > 本発明の化粧料の必須成分である水を包含させた多孔性粉体

本発明の化粧料は、水を包含させた多孔性粉体を必須成分として含有することを特徴とする。このような構成を取るために好適な多孔性粉体としては、水との親和性を有し、触媒などの分野で一般的に多孔性であると認められている粉体であれば特段の限定はなく使用することが出来、例えば、シリカ、アルミナ、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウムなどが好適に例示でき、特にシリカが好ましい。又、かかる多孔性粉体の平均粒径としては、0.0001 ミクロンから 0.1 ミクロンの微粒子、好ましくは 0.005 ミクロンから 0.02 ミクロンの超微粒子が例示できる。又、かかる多孔性粉体は、水を包含できる条件において、表面処理を施すことが出来、かかる表面処理としては、ハイドロジェンメチルポリシロキサンを焼き付け、フッ化炭化水素基を有していても良いシリルカップリング剤によるシリル化処理、金属石けん被覆処理、レシチン被覆処理、アシル化アミノ酸及び／又はその塩による被覆処理などが好適に例示でき、処理量としては、粉体全量に対して 0.1 ～ 20 質量% が好適に例示できる。特に好ましくは、ハイドロジェンメチルポリシロキサンを焼き付け処理して、疎水化した形態である。これは、このような形態を取ることで、水をマイクロカプセルの形態で包含し、肌上で水をリリースした後、多孔性粉体が速やかに皮脂吸収特性を発揮するためである。疎水化処理していない場合に於いては、皮膚上で水をリリースした後も、粉体表面が水濡れしているため、皮脂吸収作用を発揮するまでにラグ・タイムを要する。斯くの如き作用を有する、水包含多孔性粉体を調整するためには、多孔性粉体をヘンシェルミキサーなどに仕込み、攪拌混合下、水乃至は水を多く含有する水性担体を噴霧し、水滴を核とし、その周囲に多孔性粉体が被覆層を形成するような形態に流動層造粒すればよい。この時、水と多孔性粉体の好ましい量比は、5 : 1 ～ 1 : 2 であり、更に好ましくは 3 : 1 ～ 2 : 3 である。又、かかる水包含多孔性粉体の、本発明の化粧料に於ける好ましい含有量は、5 ～ 70 質量% であり、更に好ましくは 10

～60質量%である。以下に、水包含多孔性粉体の製造例を示す。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

<2>本発明の化粧料の必須成分である酸化亜鉛、塩化亜鉛、塩化マグネシウム、塩化カルシウム、塩化アルミニウム、及び金属ピラードクレーから選択される1種乃至は2種以上

本発明の化粧料は、酸化亜鉛、塩化亜鉛、塩化マグネシウム、塩化カルシウム、塩化アルミニウム、及び金属ピラードクレーから選択される1種乃至は2種以上を含有することを特徴とする。これらの成分は何れも、化粧料原料であり、市販品も存し、その入手は極めて容易である。これらの内、金属ピラードクレーとは、ベントナイト、ヘクソライト、カオリンなどのような粘土鉱物にアルミニウムや亜鉛などの金属塩乃至は金属酸化物、金属水酸化物を層間に導入し（インターカレート乃至はクラスレート）、イオン交換性を持たせた粘土類の総称であるが、この様な金属ピラードクレーの化粧料用のグレードとしては、大東化成株式会社より、販売されている「オイルセンサーパウダー」（70質量%のベントナイトに10質量%の水酸化アルミニウムと、20質量%の酸化亜鉛を層間にクラスレートしたもの）が存し、このものが特に好適に例示できる。これらの成分の内、本発明の化粧料で特に好適なものとしては、酸化亜鉛、金属ピラードクレーが例示でき、中でも酸化亜鉛が特に好ましい。この様な成分はそのまま使用することも出来るし、前記水包含多孔性粉体と同様に、表面処理などを施して使用することも出来る。かかる成分は、分泌した皮脂が、分泌部より、顔全体に広がるのを防ぐ作用を有する。この為、小鼻などの脂質分泌の著しい部位に投与すると、ここから分泌された皮脂が広がらず、これによる化粧崩れを防ぐ効果を奏する。この様な効果を奏するためには、前記成分は、化粧料全量に対して、総量で1～40質量%含有することが好ましく、更に好ましくは5～30質量%の含有である。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

<3>本発明の化粧料

本発明の化粧料は、前記1)水を包含させた平均粒径0.0001ミクロンから0.1ミクロンの多孔性粉体と、2)酸化亜鉛、塩化亜鉛、塩化マグネシウム、塩化カルシウム、塩化アルミニウム、及び金属ピラードクレーから選択される1種乃至は2種以上の必須成分とを含有することを特徴とする。本発明の化粧料は、かかる構成を取ることにより、皮脂分泌の著しい箇所において、皮脂の分泌を抑制するとともに、皮脂が顔の他の部位に拡散するのを防ぐ作用を有する。従って、本発明の化粧料は、メイクアップ化粧料などの下に塗布し、前記メイクアップ化粧料の皮脂による崩れを防ぐ目的で使用することが好ましい。又、剤形としては通常粉体化粧で知られている剤形であれば特段の限定を受けずに適用できるが、特に好ましい形態としては、ルースパウダー乃至は固形白粉が好ましく例示でき、固形白粉の場合は、ソフトプレスタイプのものが特に好適に例示できる。これは、あまりプレス圧が高すぎると、水包含多孔質粉体の水内包カプセル構造を損傷し効果を減ずる場合が存するためである。又、本発明の化粧料の適用部位としては、前記の如く脂質分泌の著しい部分が好ましく例示でき、特に好ましいのは、小鼻に局所的に投与するような形態である。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

<実施例5～7>

化粧料1を製造する際に用いたイの成分における酸化亜鉛を、表3に示す成分に変えて、本発明の実施例5～7の化粧料を作成し、試験例1と同様に化粧崩れの著しいパネラーを使用して評価した。比較例に相当するものについては作成しなかった。結果を表3に示す。これより、本発明の化粧料では、先に例示した、何れの成分も使用できることが判る。

イ

表3記載の成分	10 重量部
二酸化チタン	20 重量部
タルク	10 重量部

ロ

製造例1の水包含多孔性粉体	60 重量部
---------------	--------

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

【表3】

表3：経時による色差

サンプル	酸化亜鉛の代わりに用いた成分	色差(ΔE)
対照例(3回目)	なし	3.17
実施例5	塩化マグネシウム	0.98
実施例6	塩化アルミニウム	1.19
実施例7	「オイルセンサーパウダー」	0.73